2024年7月21日
「はじめてのキリスト教」説教要約

人生のパートナー

（創世記2・15～24）

一、聖書は神による啓示の書

創世記は、神話ではありません。おとぎ話でも、迷信でもありません。ずばり、神の啓示の書です。神がご自身のことを明らかにしておられる書です。

創世記が、神の啓示の書であると知れば、人とは何なのかを知ることができます。1章27節に〈**神は人をご自身のかたちとして創造された。神のかたちとして人を創造し、男と女に彼らを創造された。**〉とあります。人は、神によって創造された存在です。重要なのは、神が人を男と女に創造されたことです。今日、「そもそも人を、男と女に分けるのが問題である。性は、男と女だけではなく、その中間に多様な性がある」と考える方がおられます。ですが、現在の医学では、人は男と女しかいないとのことです。もちろん、私共が考えるところの男性に近い女性、女性に近い男性もいます。ですが、医学的には、人は男と女しかいないとのことです。とは言っても医学は変わって行くこともあります。大切なのは、神の啓示によれば、人は男と女しかいないということです。

さて、2章になりますと、1章27節の〈**神は人をご自身のかたちとして創造された。神のかたちとして人を創造し、男と女に彼らを創造された**〉を補完するような内容となります。2章7節です。〈**神である主は、その大地のちりで人を形造り、その鼻にいのちの息を吹き込まれた。それで人は生きるものとなった。**〉と、神による啓示が書かれています。さらに人（アダム）は何のために造られたのかが15節に現れます。〈**神である主は人を連れて来て、エデンの園に置き、そこを耕させ、また守らせた。**〉と。人（アダム）は働くために造られました。もちろん女性も同じです。何の働きをするのでしょうか。自分に授けられたところを耕し、守るためです。男と女の働きは異なります。女性は男性よりも骨格が小さく、腕力もありません。しかし子供を産み、家庭を守る仕事があり、その能力は男性に優っています。男は女性よりも骨格が大きく、力もあります。何のためなのでしょうか。家族を外敵から守り、ひいては自分たちの集団、国家を守るためです。男女のちがいは神が定めたものです。もちろん個人差はありますが、大方はそうです。さらに、人（アダム）は、神のことばに聞き、従うように造られました。そして、戒めが与えられました。16節、17節です。〈**神である主は人に命じられた。「あなたは園のどの木からでも思いのまま食べてよい。しかし、善悪の知識の木からは、食べてはならない。その木から食べるとき、あなたは必ず死ぬ。」**〉と。〈**あなたは園のどの木からでも思いのまま食べてよい**〉を私共に当てはめるなら、人はある程度は仕事を選べます。その際、なるべく自分に合った仕事を選ぶのが良いと思います。そして神の御意思に逆らうなら、たましいは死ぬのです。最初の人（アダム）は、主の戒めに従いませんでした。結果、死にました。ですが神は、アダムが罪を犯したことによってもたらされた罰としての死の問題を、キリストにおいて解決されました。

二、人とは何ものか？

三、人生のパートナー

18節を見てまいります。〈**また、神である主は言われた。「人がひとりでいるのは良くない。わたしは人のために、ふさわしい助け手を造ろう。」**〉とあります。「人（アダム）がひとりでいるのは良くない」。これが、神である主の御意思です。人（アダム）には、ふさわしい助け手が必要でした。人（アダム）に必要なのは、神である主ではなく、地上にいる、人（アダム）にふさわしい助け手でした。そのために、神である主は行動を起こされました。19節です。〈**創世記2・19**〉とあります。後半の〈**人がそれを何と呼ぶかをご覧になるためであった。人がそれを呼ぶと、何であれ、それがその生き物の名となった。**〉には、権威者が付ける名が、名前となり性質となったという、古代人の思想が根底にあります。こうして、20節です。〈**人はすべての家畜、空の鳥、すべての野の獣に名をつけた。しかし、アダムには、ふさわしい助け手が見つからなかった。**〉とあります。では、〈**助け手**〉とは、どんな存在なのでしょうか。21節、22節です。〈**神である主は、深い眠りを人に下された。それで、人は眠った。主は彼のあばら骨の一つを取り、そのところを肉でふさがれた。神である主は、人から取ったあばら骨を一人の女に造り上げ、人のところに連れて来られた。**〉とあります。神である主が人（アダム）の助け手を造る際、なぜ、人（アダム）から取った一本のあばら骨（肋骨）から女を造り上げられたのでしょうか。考えられるのは、人（アダム）と女との関係性です。さらに、人（アダム）にふさわしい助け手は、神である主ご自身が備えられたというメッセージを聞くことができます。結婚は神が良しとされることであり、みこころになかった結婚ができるなら、人生において半分成功を掴んだようなものです。24節をご覧ください。〈**それゆえ、男は父と母を離れ、その妻と結ばれ、ふたりは一体となるのである。**〉と。そうなのです。人と、その助け手との結びつきは、親子間の結びつきより強いものとなります。